

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 デジタルブック・ライブラリー整備事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部 図書館 管理調整係 電話番号：058-275-5111 (内291)

E-mail：c21803X@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 20,000 千円 (前年度予算額： 8,000 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	8,000	8,000	0	0	0	0	0	0	0
要求額	20,000	0	0	0	0	0	0	0	20,000
決定額	10,000	10,000	0	0	0	0	0	0	0

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

令和元年7月より、来館が困難な利用者へのアウトリーチサービスを目的に、電子書籍(デジタルブック)を導入している。電子書籍は1コンテンツあたりの単価が高額なため(平均7,484円)、導入から3年経た現在も、十分なコンテンツ数の収集に至っていない(令和3年度末現在、収集コンテンツ数3,808点)。

近年においては、「読書バリアフリー法」の施行(令和元年)、新型コロナ禍後の「新しい生活様式」の定着もあり、「デジタルブック・ライブラリー」の整備が喫緊の課題となっている。

(2) 事業内容

岐阜県図書館は、県下の公共図書館の中核拠点及び情報の中核拠点として、県民文化の向上に寄与することを使命として取り組んでいる。

令和5年度は、紀伊國屋書店学術電子図書館「KinoDen」が販売する電子書籍(デジタルブック)約2,700点を収集する。

(3) 県負担・補助率の考え方

県負担10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
使用料及び賃借料	20,000	電子書籍整備
合計	20,000	

決定額の考え方

事業内容を精査し、所要額を計上します。
財源については、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を充当します。

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「岐阜県デジタル・トランスフォーメーション推進計画」第2章Ⅲ4文化

(3) デジタル技術の活用による書籍・収蔵品管理の効率化・省力化

(2) 後年度の財政負担

社会のデジタル化に対応するため、従来収集している紙媒体資料（図書、雑誌等）と並行して、電子書籍（デジタルブック）の収集が必要である。

令和5年～8年度については、県の「DX推進計画」（R4～R8年度）の達成のため、下記のとおり計画的に収集し、令和8年度までに累積コンテンツ約2万点からなる「デジタルブック・ライブラリー」を構築する。

- ・「デジタルブック・ライブラリー」整備計画（令和4～8年度）

<新規収集コンテンツ数>

R4年度	1,250点	(予算額 937万円)
R5年度	2,700点	(予算額 2,000万円)
R6年度	3,300点	(予算額 2,000万円)
R7年度	4,000点	(予算額 2,000万円)
R8年度	4,500点	(予算額 2,000万円)

※整備計画の初期は、単価の高い専門書を中心に収集する。

- ・紀伊国屋書店学術電子図書館「KinoDen」

販売コンテンツ総件数	約51,000点 (2022.7年現在)
年間増加コンテンツ件数	約 16,000点 (2021年実績)

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

来館が困難な県民への情報提供を目的に、令和8年度までに電子書籍（デジタルブック）約20,000点を整備する

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R2)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①累積収集コンテンツ数	1,775	3,808	5,050	7,750	19,550	39.6%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p>・分野別収集実績 ビジネス279点、地場産業69点、健康医療115点、法律68点、事典類76点、海外情報128点、子育て73点、障がい・高齢福祉44点、その他199点（合計1,051点）</p> <p>指標① 目標：20,000点 実績：1,775点 達成率：8.9%</p>
令和3年度	<p>・分野別収集実績 ビジネス277点、地場産業113点、健康医療176点、法律75点、事典類78点、海外情報157点、子育て22点、障がい・高齢福祉61点、その他1,074点（合計2,033点）</p> <p>指標① 目標：20,000点 実績：3,808 達成率：19.0%</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない</small></p>	
(評価) 3	<p>コロナ禍において、直接の来館制限がかかる中、在宅にて非対面・非接触により利用可能な電子書籍（デジタルブック）の需要が増している。また、図書館に行くことが困難な方、障がい者や高齢者など、読書が困難な方に対する読書支援サービスともなるため、紙媒体と並行して充実したコンテンツの収集が必要である。</p>
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 3	<p>非来館型の図書館サービスに対する県民の期待は高く、導入済みの電子書籍（デジタルブック）の利用も増加傾向にある。本事業は図書館の新しい方向性を打ち出すものであり、期待以上の効果が得られるものと思われる。</p>
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている</small></p>	
(評価) 2	<p>電子書籍（デジタルブック）は、資料の貸出・返却・督促・修理・排架等の業務が不要であり、職員にかかる業務負担は少ない</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 図書館に行くことが困難な方、障がい者や高齢者等の利用登録を促すために、広報が必要である。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 電子書籍の出版市場の拡大、社会のデジタル化への対応として、電子書籍（デジタルブック）の整備が継続して必要となる。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	